

原植物は植物の霊的な原像である。

それは《四大が織りなす風土》を通して、

様々な種として地上に姿を現わす。



A5変型／フランス装 本文128頁
定価2750円（本体価格2500円＋税）
ISBN978-4-903865-55-3

丹羽敏雄 Toshio Niwa

京都大学理学部において数学を専攻。大学時代、ゲーテに出会い大きな影響を受ける。30代半ばシュタイナーの人智学に出会う。数学の研究・教育の傍ら、オイリュトミーに熱中。人智学をドイツ、イギリスなどで学ぶ。現在、ゲーテ・シュタイナー的科学、バイオグラフィー・ワーク、占星学、カバラを研究。バイオグラフィー・ワークス・ジュピター会員。理学博士、津田塾大学名誉教授。人智学関連著書に『やさしい占星術』、『星々と木々』、『シュタイナーの老年学』、『百合と薔薇』、『沈黙のコスモロジー』、『シュタイナーの人生学』他。訳書に『境域に立つ I・II』、『植物への新しいまなざし』、『エーテルと生命力』、『魂の救済』、『アントロポゾフィーの礎』、『人間と大地における惑星の作用と生命プロセス』シュタイナー最晩年のカルマ論講演邦訳「パリ講演」など

表紙画：丹羽敏雄

四大が織りなす風土としての 植物と人間

丹羽敏雄 著

そもそも大いなる自然のなかには
人間以外にいったい何があるのでしょうか。本当は何もないのです。
…地球外の環境に向かって伸びていく植物相との間の
相互作用に基づくもの、これらは嗅覚知覚そのものの中で、
いわば内面化される…。

*

イネ科はいわゆる風媒花です。

花粉は、風に乗って雄蕊から光と熱に満たされた空気中に
まき散られます、言わば宇宙的なアストラルと出会います。
そして雌蕊の子房の中に受け入れられ、受精に至ります。

*

特定の植物から得ることができる薬剤は、

人間有機体の全体に等しく作用するのではなく、

——人間の“内なる風土”と呼び得る——

あれこれの有機的領域の上に選択的に作用します。

つまり、その薬草が効果を発揮するのは、薬草の育つ風土、
言いかえると、薬草自身が持つ内的な風土と、
それが処方される“人間の内なる(あるべき)風土”が
類似しているときなのです。

(本文より)

人間の内面こそが、
事物の理念的、内的なものが明らかになる舞台である。

CONTENTS

- I はじめに
 - II 四大：四つのエレメント・エーテル・物理力の三つ組
 - III 四大と人間の魂
 - IV 風土と人類の文明・文化
 - V 三原理と三分節について
 - VI 感覚器官を通して植物と人間の間の類似性を考える
 - VII 風土と植物と人間
- あとがき

株式会社 涼風書林

〒152-0004 東京都目黒区鷹番 1-14-16

Tel/Fax 03-3710-5160

URL : <http://www.kirisutoshakyodotai.org/ryofu.html>

E-Mail : ryofu@kirisutoshakyodotai.org

涼風スペース : <http://ryofu-shorin.jimdo.com>

郵便振替口座 : 00180-1-356521